

在宅医療・介護連携推進協議会	協議資料
令和7年2月14日	
市役所 302 会議室	

令和6年度 第4回
立川市在宅医療・介護連携推進協議会
協 議 資 料

令和7年2月14日（金）

立川市 保健医療部 高齢福祉課

報告事項①

「認知症地域支援推進員（在宅医療・介護相談窓口担当）」の増配置について	
増配置の経緯	<p>今後増加する認知症高齢者やその家族が地域で安心して住み続けられるためには、地域それぞれの特性に合わせた取り組みが必要であるため。 (令和7年1月より増配置開始)</p>
主な変更点	<p>1. 専従から兼務可へ変更 認知症施策推進のためには地域の理解促進や活動の場・機会など、地域との繋がりが不可欠であることから、これまで認知症地域支援推進員専従としていた委託仕様書を兼務可と変更した。</p> <p>2. 資格の変更 変更前) 保健師又は看護師 変更後) 認知症の医療や介護における専門的知識及び経験を有する 医師、歯科医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士、視能訓練士、義肢装具士、歯科衛生士、言語聴覚士、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師、柔道整復師、栄養士、精神保健福祉士又は介護支援専門員</p>
業務内容	<p>1. 認知症地域支援推進員</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療・介護等の支援ネットワーク構築 ② 関係機関と連携した事業の企画・調整 ③ 相談支援・支援体制構築 ④ 認知症サポーター活動促進・地域づくり推進 ⑤ 関連する研修等への参加 <p>2. 在宅医療・介護相談窓口担当</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 在宅医療・介護連携に関する相談支援 ② 在宅医療・介護連携に関する会議への参加 ③ 地域住民等への普及啓発 ④ 医療・介護関係者間の連携強化に関する業務 ⑤ 関連する研修等への参加
担当	<p>第1地区：南部西ふじみ地域包括支援センター 山村 恵 第2地区：南部東はごろも地域包括支援センター 野呂 美緒 第3地区：中部たかまつ地域包括支援センター 國重 智美 第4地区：北部東わかば地域包括支援センター 黒田 研吾 第5地区：北部中さいわい地域包括支援センター 水村 安代 第6地区：北部西かみすな地域包括支援センター 調整中 (令和7年1月末現在)</p>

報告事項②

医療と介護の連携強化に関する多職種研修事業 第3回報告	
内容	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都 DHEAT 活動報告から 多摩立川保健所所長 長嶺 路子 様 ・ 立川市避難行動要支援者対策事業について 立川市福祉部福祉総務課 西上 大助 課長 ・ 災害支援医療を考えて 立川市医師会在宅医療担当理事 荘司 輝昭 様 </div> <p>参加人数：56 人 職種：医師 5 人、歯科医師 2 人、薬剤師 5 人、理学療法士 1 名 看護師 18 人、介護職員 1 人、社会福祉士 1 名 ケアマネジャー 10 人、施設管理者・施設職員 6 人、行政職員 7 人</p>
アンケート 結果 (一部抜粋)	<p>【東京都 DHEAT 活動報告から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DHEAT の取り組みや災害現場の実態や課題を学ぶことができた。災害現場に行ってきた方の実感や状況を聞ける機会はなかなか無いので大変参考になった。 ・ 災害時の保健所の役割が理解できた。また、保健衛生についても発災後すぐではなく、数週間のフェーズで、考えて訓練する必要性を感じた。 <p>【立川市避難行動要支援者対策事業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要救助者のことは前から知っていたが、更に必要性のある方への申し込みを、ケアマネと相談していきたい。 ・ 事業の内容を知ることができ、より良くしていく為に個人情報等の課題が解決できていない等、今後の課題を知ることができた。行政の取り組みを噛み砕いて聞ける機会は貴重なため、とても良い時間になった。 <p>【災害支援医療を考えて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DX 化の課題、災害を想定して早急に進めておく必要があることが分かった。 ・ 平日からサージキャパシティに対する備えをしておく必要性や、災害関連死を防ぐための備えなど、課題は多岐であるが、まずは自身の備えを整える大切さを研修のたびに感じ実行に移している。
お知らせ	<p>第4回目の開催が延期となり、現段階では第4回目の日程は未定です。決まり次第改めてお知らせし、募集を行います。</p>

報告事項③

「在宅療養において積極的役割を担う医療機関」について	
概要	<p>高齢化が進展し、在宅医療の需要の増加が見込まれる中、地域の医療及び介護、障害福祉の関係者による連携等が求められており、「在宅療養に必要な連携を担う拠点」とともに「在宅療養において積極的役割を担う医療機関」を東京都が指定し、地域の在宅療養体制の一層の充実を図ることを目指している。</p> <p>立川市では、在宅療養体制の更なる強化に向けて、立川市医師会からの推薦を受け、特に地域における在宅医療提供の中心的役割を担う機能強化型在宅療養支援診療所・機能強化型在宅療養支援病院（連携型、単独型いずれも含む）を「在宅療養において積極的役割を担う医療機関」として東京都へ推薦する。</p>
目標・求められる事項等	※別紙 1 参照。
推薦医療機関	<p>医療機関名：医療法人社団在和会 立川在宅ケアクリニック</p> <p>医療機関種別：機能強化型在宅支援診療所（支援診 1・支援診 2）</p>
公表	令和 7 年 3 月に東京都のホームページにて「在宅療養に必要な連携を担う拠点」とともに、指定医療機関名を公表予定。

報告事項④

地区健康フェアにおける「ACP」意識調査について																																																																																														
目的	<p>昨年度に引き続き、市民がその程度 ACP(人生会議)について理解し、備えているかを明らかにするため、意識調査を行った。また、昨年度と同様の質問をすることで経年変化を比較するとともに、「人生の終わり方を考えたことがある」方に、その思いを周囲に伝えていくことの重要性をお伺いすることで、さらなる普及啓発のポイントを考察する機会とする。</p>																																																																																													
調査方法	<p>各地区健康フェアにて、男女別に最大4つの設問についてシールアンケートにて回答いただいた。</p> <p>設問1：「ACP（人生会議）という言葉を知っていますか？」</p> <p>設問2：「人生の終わり方について考えたことがありますか？」</p> <p>※以下は設問2で「ある」と答えた方を対象にした設問</p> <p>設問3：「人生の終わり方について誰かに話したことはありますか？」</p> <p>設問4：「設問3について、どれくらい大切だと思いますか？」</p> <p>※設問4のみ、10段階評価の回答</p> <p>なお、来場者によってはすべての質問に回答していない場合もあり、各設問の回答者数は必ずしも一致しない。</p>																																																																																													
調査結果	<p>対象：10か所(富士見・柴崎・錦・高松・曙・若葉・幸・柏・砂川・西砂)</p> <p>設問1：「ACP（人生会議）という言葉を知っていますか？」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">地区</th> <th rowspan="2">全体人数</th> <th colspan="2">男性</th> <th colspan="2">女性</th> </tr> <tr> <th>知っている</th> <th>知らない</th> <th>知っている</th> <th>知らない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>富士見</td> <td>51</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>5</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>柴崎</td> <td>50</td> <td>4</td> <td>16</td> <td>6</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>錦</td> <td>18</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>高松</td> <td>22</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>曙</td> <td>25</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>若葉</td> <td>47</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>幸</td> <td>48</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>13</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>柏(※)</td> <td>30</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>17</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>砂川</td> <td>61</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>5</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>西砂</td> <td>24</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>376</td> <td>33</td> <td>74</td> <td>68</td> <td>201</td> </tr> </tbody> </table> <p>男女合計：知っている101人、知らない275人</p> <p>※柏地区に関しては、アンケート前に認知症疾患医療センター医師より講義を受け、その際にACPや成年後見制度の内容があったことから、「知っている」と答えた人数が多くなっている。</p>							地区	全体人数	男性		女性		知っている	知らない	知っている	知らない	1	富士見	51	8	12	5	26	2	柴崎	50	4	16	6	24	3	錦	18	6	5	1	6	4	高松	22	2	4	7	9	5	曙	25	0	5	3	17	6	若葉	47	1	7	7	32	7	幸	48	2	5	13	28	8	柏(※)	30	4	2	17	7	9	砂川	61	5	11	5	40	10	西砂	24	1	7	4	12		合計	376	33	74	68	201
	地区	全体人数	男性		女性																																																																																									
			知っている	知らない	知っている	知らない																																																																																								
1	富士見	51	8	12	5	26																																																																																								
2	柴崎	50	4	16	6	24																																																																																								
3	錦	18	6	5	1	6																																																																																								
4	高松	22	2	4	7	9																																																																																								
5	曙	25	0	5	3	17																																																																																								
6	若葉	47	1	7	7	32																																																																																								
7	幸	48	2	5	13	28																																																																																								
8	柏(※)	30	4	2	17	7																																																																																								
9	砂川	61	5	11	5	40																																																																																								
10	西砂	24	1	7	4	12																																																																																								
	合計	376	33	74	68	201																																																																																								

設問2：「人生の終わり方について考えたことがありますか？」

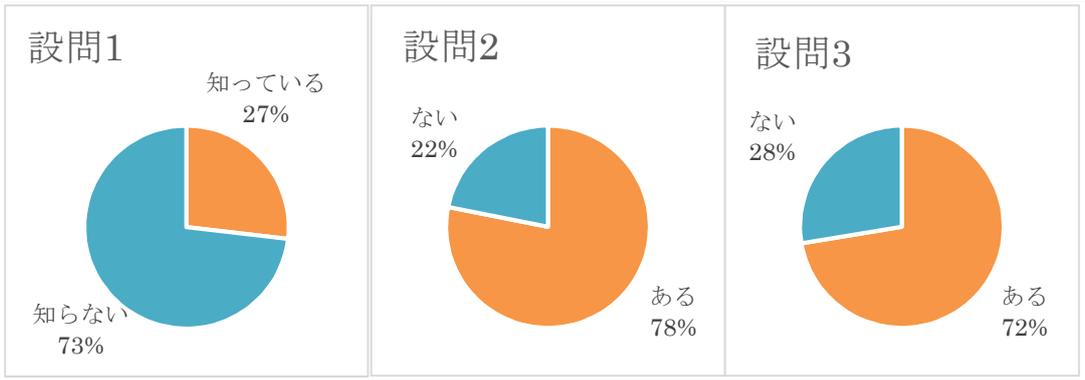
	地区	全体人数	男性		女性	
			ある	ない	ある	ない
1	富士見	46	10	5	27	4
2	柴崎	50	11	7	29	3
3	錦	18	7	4	4	3
4	高松	32	4	2	14	12
5	曙	25	3	2	16	4
6	若葉	47	5	3	35	4
7	幸	48	6	1	38	3
8	柏	24	5	0	13	6
9	砂川	61	15	1	40	5
10	西砂	24	1	7	10	6
	合計	375	67	32	226	50

男女合計：ある 293 人、ない 82 人

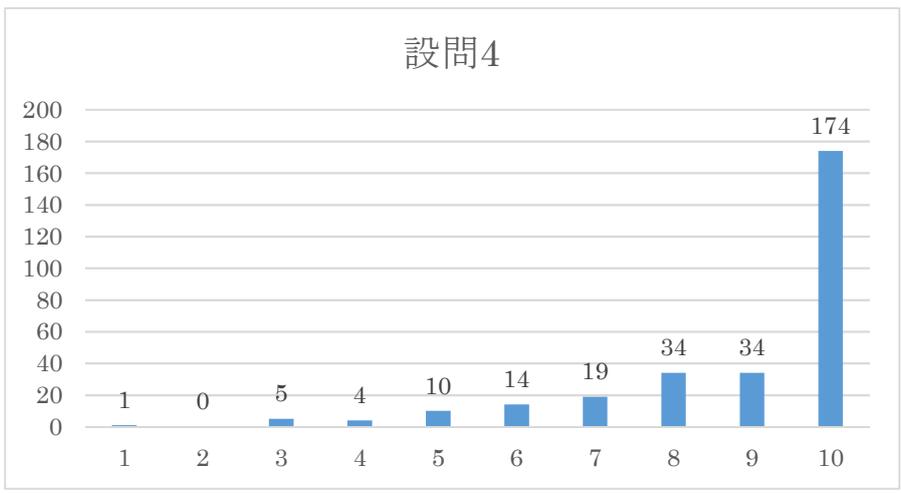
設問3：「人生の終わり方について誰かに話したことはありますか？」

	地区	全体人数	男性		女性	
			ある	ない	ある	ない
1	富士見	37	7	3	20	7
2	柴崎	45	8	6	26	5
3	錦	11	3	3	3	2
4	高松	18	4	0	12	2
5	曙	19	2	1	11	5
6	若葉	47	2	5	30	10
7	幸	44	2	4	33	5
8	柏	24	5	0	13	6
9	砂川	55	12	3	28	12
10	西砂	11	0	1	4	6
	合計	311	45	26	180	60

男女合計：ある 225 人、ない 86 人



設問4：「設問3について、どれくらい大切だと思いますか？」



大切ではない ←————→ とても大切

考察

昨年度と比較し、設問1「ACP（人生会議）という言葉を知っていますか？」の「知っている」と回答した方の割合は、約1割から3割に増加（5月26日の医療・介護フェスの際は約2割であった）。市民フォーラム等での周知、また地域包括支援センターを中心に、相談対応時や地域での集まりの際に周知を継続してきた成果が出ていると考える。

今回、設問3「人生の終わり方について誰かに話したことはありますか？」を新たに追加した意図としては、自分一人で抱え込まずに積極的に他者へ発信することで、自分の思いを共有したり、再確認する機会になるということに気づいていただきたいという思いがある。設問2「人生の終わり方について考えたことがありますか？」より設問3「人生の終わり方について誰かに話したことはありますか？」の「ある」と答えた方の割合がやや低く、人生の終わり方について考えたことはあるが、誰かに話したことはない人が一定数いることが分かり、自分の思いを他人に伝えることが何故必要かを、今後も継続して伝えていく必要がある。

ACPは一度決めたら変えられないものではなく、日々の中で変化していくものであるため、そういった機会が身近な生活の場面に根付くような働きかけを実践していく必要がある。

報告事項⑤

令和6年度 東京都在宅療養支援窓口取組推進研修について	
目的	在宅療養支援窓口に求められている役割や、効果的取り組みについて理解してもらうことにより、各市町村在宅療養窓口におけるより一層の取組推進を図る。
研修概要	<p>日時：令和6年12月24日（火曜日）午後1時から午後4時</p> <p>実施主体：東京都</p> <p>実施機関：公益社団法人東京都看護協会</p> <p>研修対象：在宅療養支援窓口担当者及び区市町村行政職員</p> <p>会場：東京都看護協会</p> <p>立川市参加者：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・介護相談窓口担当：兵藤 千穂 様 ・行政職員：高齢福祉課認知症対策係 藤丸 美佳
研修内容	<p>講義1 「在宅療養支援窓口の役割」 「事前課題について報告」</p> <p>講義2 【実践報告】練馬区「多職種研修会議の企画と実施について」</p> <p>講義3 【実践報告】調布市「調布市在宅医療・介護連携推進事業の実践」</p> <p>講義4 区市町村ごとに分かれて情報共有 「地域の課題と行っていること、知りたい地域の情報」</p> <p>講義5 グループワーク「認知症の方の意思決定支援」</p>

報告事項⑥

令和6年度 東京都地域医療構想調整会議 在宅療養ワーキンググループ 報告																							
目的	医療法第30条の14に基づき東京都地域医療構想の実現に向けた取組について協議するため、「東京都地域医療構想調整会議」を構想区域ごとに設置する。																						
開催日等	開催日時：令和7年1月14日(火) 午後7時00分から午後8時30分 開催方法：Web会議形式「Cisco Webex Meetings」																						
参加者	<p>立川市参加者</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">区分</th> <th style="width: 40%;">役職</th> <th style="width: 30%;">氏名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地区医師会代表 在宅医代表</td> <td>理事/医) 在和会 立川在宅ケアクリニック院長</td> <td>荘司 輝昭 様</td> </tr> <tr> <td>歯科医師会代表</td> <td>立川市歯科医師会 公衆衛生担当理事</td> <td>中村 伸 様</td> </tr> <tr> <td>薬剤師会代表</td> <td>東京都薬剤師会 常務理事</td> <td>根本 陽充 様</td> </tr> <tr> <td>看護協会代表</td> <td>立川中央病院 看護部長 東京都看護協会 多摩北地区理事</td> <td>伊東 恵美子 様</td> </tr> <tr> <td>介護支援専門員 研究協議会代表</td> <td>東京都介護支援専門員研究協議会・運営委員/居宅介護支援事業所しごかい相談室・管理者</td> <td>紺屋 幸子 様</td> </tr> <tr> <td>区市町村代表</td> <td>保健医療部高齢福祉課長</td> <td>村上 満生</td> </tr> </tbody> </table>		区分	役職	氏名	地区医師会代表 在宅医代表	理事/医) 在和会 立川在宅ケアクリニック院長	荘司 輝昭 様	歯科医師会代表	立川市歯科医師会 公衆衛生担当理事	中村 伸 様	薬剤師会代表	東京都薬剤師会 常務理事	根本 陽充 様	看護協会代表	立川中央病院 看護部長 東京都看護協会 多摩北地区理事	伊東 恵美子 様	介護支援専門員 研究協議会代表	東京都介護支援専門員研究協議会・運営委員/居宅介護支援事業所しごかい相談室・管理者	紺屋 幸子 様	区市町村代表	保健医療部高齢福祉課長	村上 満生
区分	役職	氏名																					
地区医師会代表 在宅医代表	理事/医) 在和会 立川在宅ケアクリニック院長	荘司 輝昭 様																					
歯科医師会代表	立川市歯科医師会 公衆衛生担当理事	中村 伸 様																					
薬剤師会代表	東京都薬剤師会 常務理事	根本 陽充 様																					
看護協会代表	立川中央病院 看護部長 東京都看護協会 多摩北地区理事	伊東 恵美子 様																					
介護支援専門員 研究協議会代表	東京都介護支援専門員研究協議会・運営委員/居宅介護支援事業所しごかい相談室・管理者	紺屋 幸子 様																					
区市町村代表	保健医療部高齢福祉課長	村上 満生																					
内容	<p>議事：「地域における在宅医療連携の更なる推進に向けた取組」についての意見交換</p> <p>内容：</p> <p>(1) 各区市村のメンバーにおける事前の議論の実施</p> <p>(2) 区市町村ごとに取りまとめた意見を報告</p> <p>(3) (2)の内容を踏まえ意見交換を実施</p> <p style="margin-left: 20px;">① 複数疾患を有する高齢患者などの在宅療養に当たり、医療・介護の人材不足が懸念される中で、どう効率的に多職種で連携するか</p> <p style="margin-left: 20px;">② 現状の多職種連携の際の連絡方法・手段について課題があるか</p> <p style="margin-left: 20px;">③ その他</p> <p>(4) まとめ</p> <p>※協議会当日、区市町村代表で参加した高齢福祉課長より、内容のご報告をいたします。</p>																						

報告事項⑦

地域包括支援センター向け「医療機関からの相談受付票」について	
概要	<p>立川市1層の会議体である介護予防業務連絡会（※）にて、特に医療機関との連携（入退院時の連携等）に関する課題が挙がっており、在宅医療・介護相談窓口担当と行政で、要因及び課題に対する対策を検討した。</p> <p>※介護予防業務連絡会 地域包括支援センターの保健師・看護師と業務内容等について協議・検討。</p>
要因及び対策	<p>【要因の1つとして考えられること】 相談時の受け手側である介護側（地域包括支援センター等）が、医療機関から情報を聞き取る際に、職種や経験年数によって聞き取りの内容に差異が生じているのではないか。</p> <p>【対策：「医療機関からの相談受付票」（別紙2参照）の作成】 対象者：地域包括支援センター職員 目的：経験年数や職種に左右されず同一の対応ができるシステムを作る。 使用方法：医療機関や施設等から連絡が入り、対象者の情報を聞き取る際に使用。相談目的により関連する項目を選択し聞き取りを行う。 期待される結果：介護側が必要な情報を聞き取ることで、市民に対し、適切なサービスを提案できる。最終的には、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる。</p>
活用にあたり	<ul style="list-style-type: none"> ・12月の介護予防業務連絡会にて地域包括支援センターへ共有し活用を開始。2月の連絡会にて使用してのご意見を伺い、意見をもとに内容の追加・修正を行う。 ・1月の地域ケア推進会議にて報告 参加者である市内の病院に取り組みを把握してもらうことで、医療と介護の連携をよりスムーズに図ることができることを目指す。

報告事項⑧

令和7年度 在宅医療・介護連携推進協議会 日程				
日時・会場	第1回	令和7年5月2日(金)	13:30~15:00	302 会議室
	第2回	令和7年7月18日(金)	13:30~15:00	302 会議室
	第3回	令和7年11月21日(金)	13:30~15:00	101 会議室
	第4回	令和8年2月6日(金)	13:30~15:00	101 会議室